

第31回 (H27.春) 佐鳴湖水質調査の結果



平成27年6月 佐鳴湖地域協議会

佐鳴湖では、住民の方に協力いただき、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算31回目となりました。

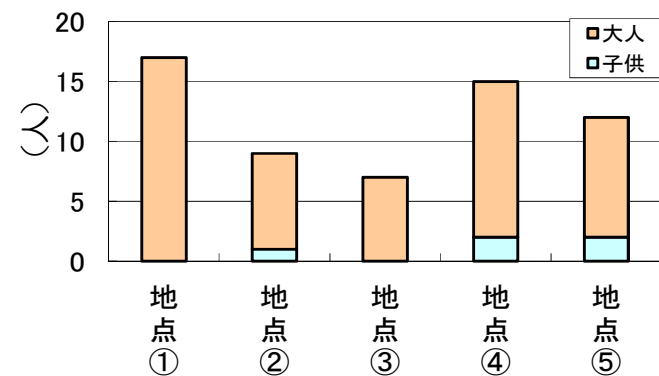
調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいややすさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH ₄ -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD

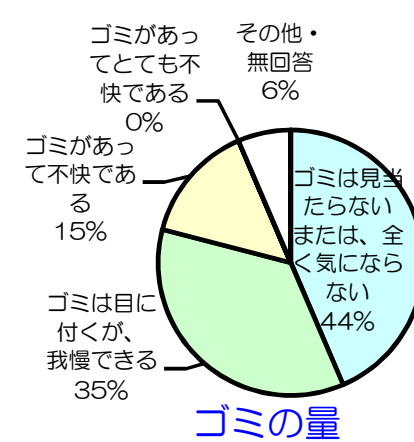


調査日時：平成27年5月16日(土)
9時~12時
参加人数：33名
(大人30名、子供3名)
調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定

各調査地点の調査人数

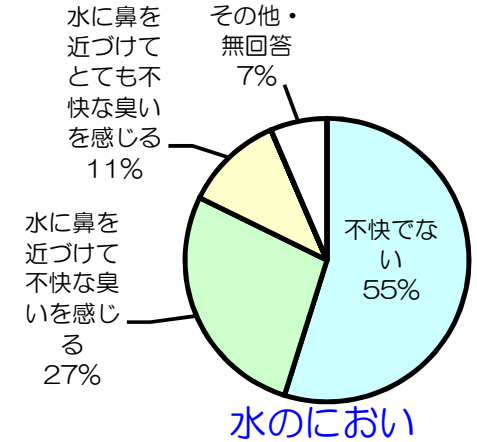


アンケート調査の結果



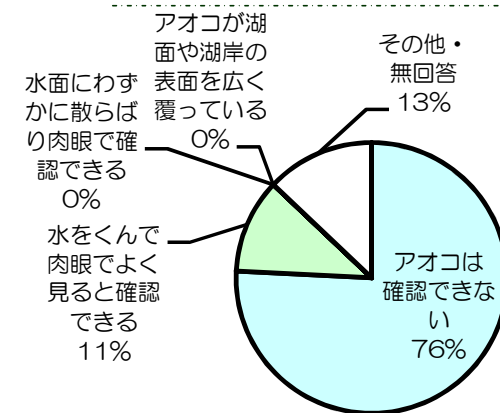
ゴミの量

44%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



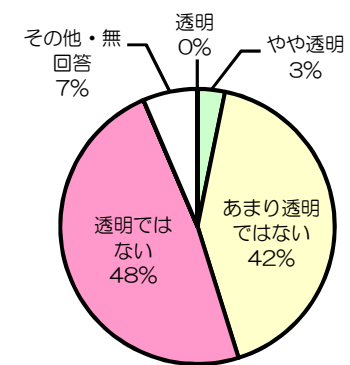
水のおいしさ

55%の人が水のおいしさは「不快でない」と答えました。



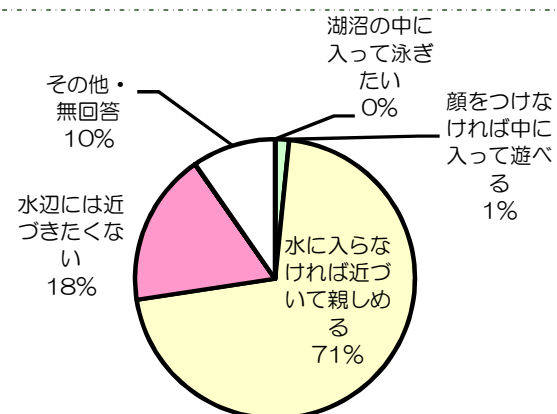
アオコの発生

「アオコは確認できない」という回答が大半を占めました。



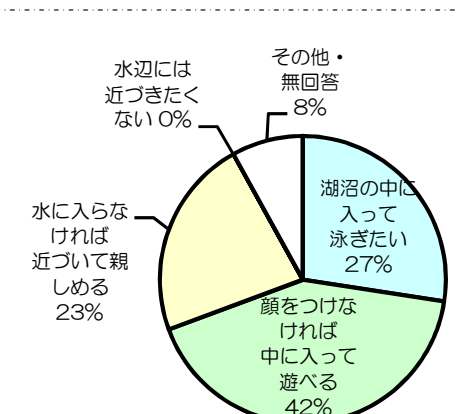
水の透明さ

ほとんどの人が「透明ではない」または「あまり透明ではない」と答えました。



佐鳴湖の水を見て (現状)

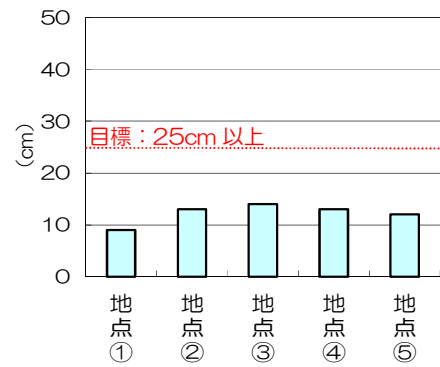
「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が71%で最も多くなりました



将来の佐鳴湖 (希望)

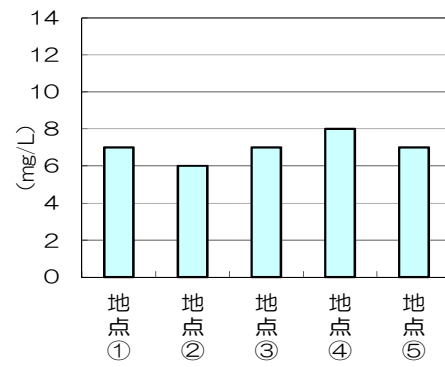
水の中に入って遊べる湖になってほしいという回答が最も多くなりました。

簡易水質調査の結果



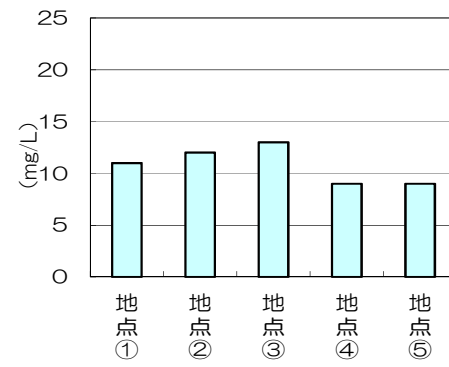
透視度

透視度（水の透明さの程度）は 9～14cm で、目標の 25cm を下回りました。



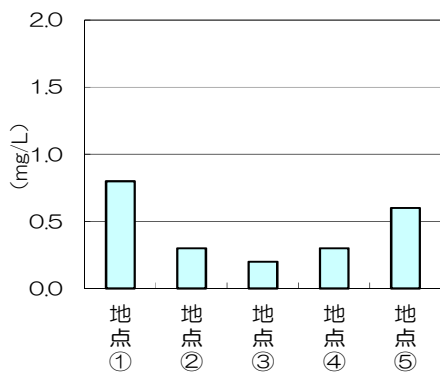
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で 6～8mg/L でした。



化学的酸素要求量 (COD)

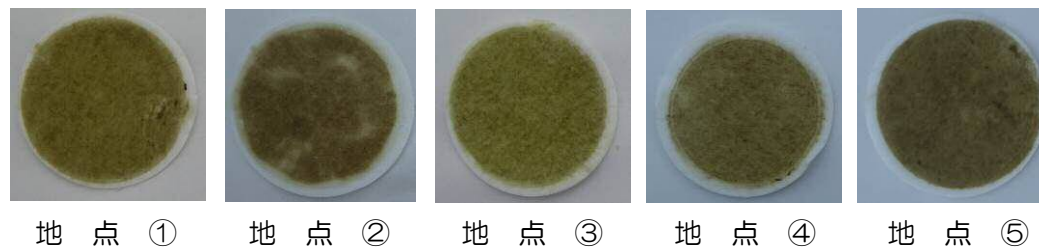
有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 9～13mg/L でした。



クロロフィルの簡易確認

アンモニア態窒素 (NH₄-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で 0.2～0.8mg/L でした。



地点① 地点② 地点③ 地点④ 地点⑤

注射筒とろ紙を使って、200mLの水をろ過しました。ろ紙の色は、いずれの地点も濃い緑褐色になり、植物プランクトンが多いことがうかがえました。



河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィル a (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH ₄ -N (mg/L)
調査地点①	34	54.4	132	1520	6.6	8.1	0.13
調査地点②	27	48.3	105	216	5.1	8.4	0.22
調査地点③	18	40.6	111	700	7.4	10.3	0.09
調査地点④	34	49.6	123	520	6.9	10.4	0.12
調査地点⑤	23	37.7	83	2420	7.4	10.6	0.08

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH₄-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

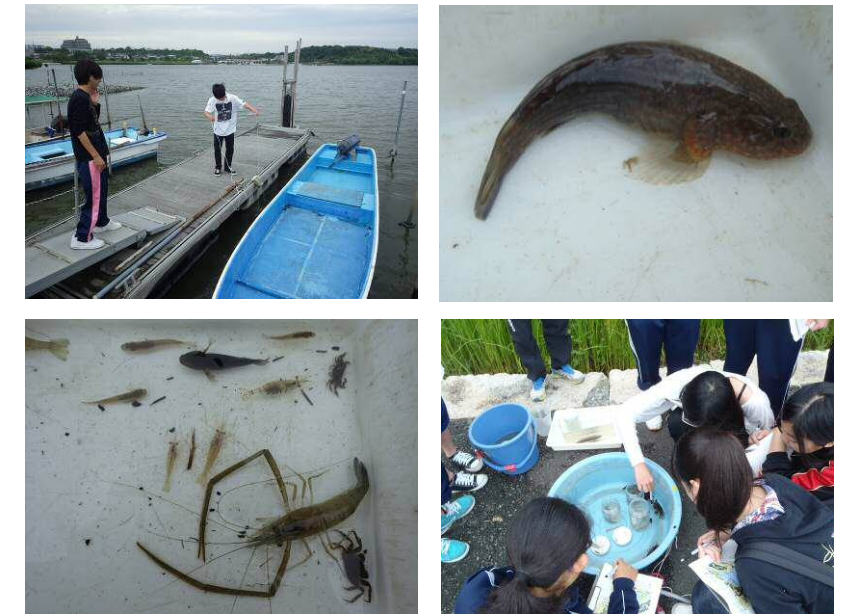
生物調査の結果

水生生物の採取

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは②③⑤のあわせて3地点です。

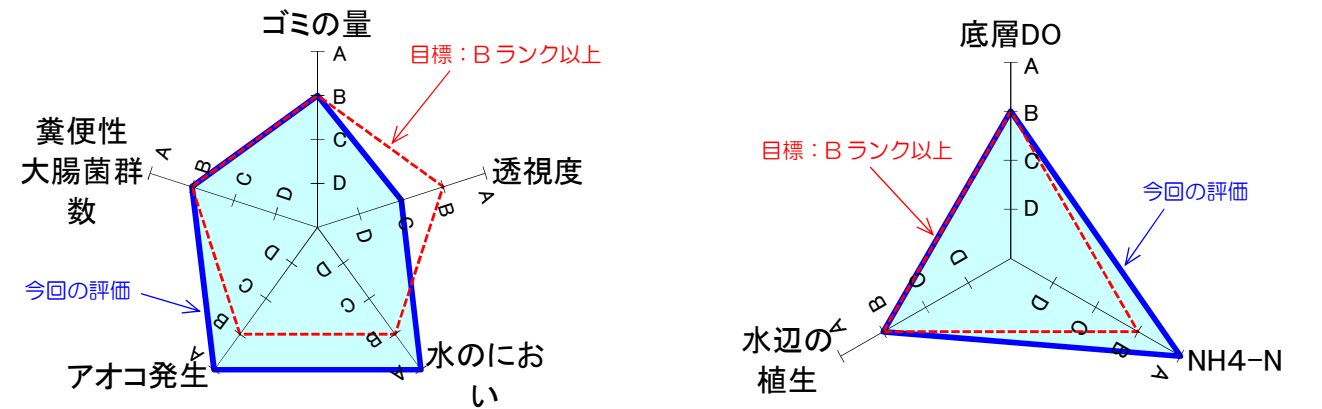
甲殻類はテナガエビ、スジエビ、モクズガニがとれました。魚類はオイカワ、カワアナゴ、チチブがとれました。

前回、冬の調査に比べると、確認できた生物の数や種類が増えました。春になり水温が上がるにつれて、生物の活動も活発になってきたようです。



湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成 22 年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した 5 地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目で B ランク以上になることです。今回も透視度が C ランクとなり、目標は達成できませんでした。また、前回 (H27 冬) と比べるとゴミの量と糞便性大腸菌が A から B ランクに下がりました。一方、水辺の植生の項目が C から B ランクに上がりました。A ランクの数、のべ 40 項目 (8 項目×5 地点) のうち 19 項目で、全体の 48% となりました。



おわりに 今回は雨が心配されましたが、雨雲が見事に佐鳴湖をよけてくれて、無事に調査を終えることができました。参加して下さった皆さん、ありがとうございました。次回も多くの方の参加をお待ちしています！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：佐鳴湖地域協議会

(事務局) 静岡県浜松土木事務所 企画検査課 (053-458-7266)